

## 平和宣言

1944年10月10日、南西諸島全域が午前6時40分から午後3時45分間に5回もの激しい爆撃を受け、那覇市の約90%が焼失しました。その後の地上戦では、沖縄県民も巻き込まれ、日本兵の戦死者約8万人を上回る約9万4千人もの一般市民が犠牲となりました。その中には今の私たちと同年代の若くて尊い命も多く含まれていました。

こんな過去があるのにも関わらず、現在、日本政府は戦争放棄を示している日本国憲法第9条の改正をしようとしています。戦争の悲惨さを知っているはずなのに…声を大にして平和を訴えていかなければならないのに…平和な世界にするか、戦争をしやすくするか、どのように変えるのかは私たち次第です。

皆さんは「平和」と聞いて何を想像しますか。

ただ戦争がないこと。

ただ核兵器がないこと。

「平和」とは何なのでしょう。

私たちは「平和」を、いつも通りの明日が来ると安心して思えること、みんなが笑顔で過ごせること、夢や希望を持てる未来があること、だと考えます。

「平和」という言葉をよく聞く今だからこそ、今一度真の平和とは何なのかを考え直したいです。

戦争の実体験を語れる方は今やごくわずかとなっています。そんな中、今回の修学旅行は、実際に戦争を体験した方々から大切に受け継がれた話を沖縄で聞くことが出来るとても貴重な機会です。

この修学旅行を通して、当時の人々が感じたことや、体験したことを学びます。そして、これからも平和について考え続け、自分の意見を持ち、未来に伝え続ける努力をすることを宣言します。